

カンブリア宮殿を視聴して (2016/01/28)

オーラルフィジシャン育成セミナーの受講を終えて1年近くが経とうとしている。勤務医時代からずっと思い描いてきた予防をベースとした歯科診療が、少しずつではあるが形になってきている実感もある。最初はただただ真似てみることから始めてきたが、最近ではスタッフと相談し、受講して得た知識や考え方を自院の診療へ落とし込み、消化し、試行錯誤する日々が続いている。

先日放送されたカンブリア宮殿での日吉歯科の取り組みを視聴して、歯科医院を切り盛りする院長として、また一人の歯科医師として、自分の存在意義とは何か再確認する良い機会になったような気がする。

歯科医師は、歯を削ることが仕事である。歯を削って生計を立てている。自院に来院する患者には、切削を必要とする患者も存在するし時には抜歯やインプラントなどの処置も必要である。

一方、歯科医院は歯を守ることが仕事である。天然歯を守って生計を立てるべきである。歯科医師は、歯科医院が天然歯を守る診療を実践した上でそれでも処置が必要になった患者のために存在すべきであり歯科医師の仕事は歯科医院が担う仕事の本質ではない。もちろん、我々歯科医師は健康を損なった患者の口腔機能の回復を行える数少ない専門職であり、そのような患者のために日々研鑽を積むことを忘れてはならない。しかしながら、我々歯科医師が歯科医院の役割と歯科医師の役割を混同してしまうと、切削の繰り返しを一体誰が止めるのだろうか。

歯科医師であり、歯科医院の責任者である院長は、切削を回避するために院長としてその手腕を振るい、切削が必要になった場合は歯科医師として手腕を振るう。院長としての役割と歯科医師としての役割を混同してしまった場合、非常に危うい歯科医療を提供してしまう可能性があることを常に心に留めておく必要があると思う。

月日が経つと初心を忘れがちなのが人間である。今回、受講後1年でこのような番組を視聴することができ、我々の医院で目指す歯科医療について再認識でき、スタッフと共有できたことは、自院にとって、また歯科医師である私にとってとても有意義なものとなった。

最近では、一昔前のようにメディアでインプラントのネガティブ報道ばかりが目立つ時代は終わり、自分の歯を残すことに焦点を当てた報道が増えているように思う。嬉しい限りであるが、地域社会の期待を裏切らないよう、今後もスタッフとともに院長として、歯科医師として成長していきたい。

まるやま歯科
丸山俊正